

2026年 3月 31日

発行者 中澤 敬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0031

群馬県前橋市下小出町1-13-19

電話: 027-231-4553

E-mail: info@jdg-gunma.jp

ホームページ: jdg-gunma.jp/



第10回ドイツフェスティバル in ぐんま 記念式典にて(2025年11月1日)

目次 (第10回ドイツフェスティバル in ぐんま特集号)

1. 会長の言葉	1
2. 第10回のフェスティバルを振り返って	3~16
(1) 第10回のフェスティバルを終えて (2) パネル作成について「グリム童話」	
(3) グリム童話 紙芝居と読み聞かせ (4) 大使館コーナーの展示	
(5) 手作りクマさんのお披露目 (6) ドイツフェス 初の珈琲販売	
(7) オリジナルグッズの制作 (8) ステージ係を担当して (9) 大型スクリーンを担当して	
(10) 記念式典を主催して (11) 県民広場でドイツ車展示	
3. 令和7年度後期行事(10月~3月)を振り返る	
(1) ドイツサロン(12月6日・1月10日)	17
(2) 講演会「ブルーノ・タウトと少林山達磨寺」	18
4. 日本百名山独訳(連載16)	19
5. デザイナー修行奮闘記(連載23)	23
6. 新入会員紹介	26
7. お知らせあれこれ	27
8. 編集後記	28

1. 何を守り、何を次世代へ手渡すのか

日独協会の皆様、こんにちは! 昨年 11 月に開催されたドイツフェスティバルへのご来場ならびに多大なるご協力を大変ありがとうございました。皆様のおかげで、盛況ののちに終えることができ、改めてこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、この2月、ぐんま日独協会の事業として、高崎市少林山達磨寺御住職・広瀬正吏氏をお迎えし、「ブルーノ・タウトと高崎」と題するご講演を拝聴いたしました。ドイツが生んだ世界的建築家ブルーノ・タウトの足跡を辿りながら、日独両国の精神文化がいかに深く響き合ってきたかを改めて胸に刻む、誠に意義深いひとときでありました。

タウトは 20 世紀初頭のドイツ表現主義建築を代表する建築家であり、社会理想に基づく住宅建築を通して「人々の生活をより良くする空間とは何か」を問い続けました。建築を単なる造形ではなく、人間の尊厳と共同体の理想を具現化する営みと捉えた点に、彼の揺るぎない信念がありました。



「ブルーノ・タウト」

1933年、ナチス政権下で祖国を追われ来日した彼は、日本建築の中に思いがけぬ精神的共鳴を見出します。桂離宮の簡素にして気品ある佇まい、自然と静かに呼応する空間構成。その姿に、彼は近代建築の未来を見ました。半年にわたり各地を巡り、日本の神社仏閣や文物に触れた後、仙台工芸指導所では、安易な模倣や迎合を戒め、真に誠実なものづくりの姿勢を説きました。その厳しさは、文化にする深い敬意と責任感の表れであったと思われます。熱海の旧日向別邸に代表される作品には、光や風、素材を生かし、日本の自然と共生する思想が脈打っています。

そして高崎は、彼が日本を去るまで暮らし、人々と心を通わせた地であります。「洗心亭」を擁する少林山達磨寺に息づく禅の精神、自然への畏敬、簡素の中に宿る豊かさ。タウトはこうした高崎の素晴らしい環境の中で、日本で得た学びを数多くの作品に反映させていきました。

また、広瀬御住職は、タウトの建築思想だけでなく、彼が日本で抱いた「信条」にも触れられました。それは、合理性と精神性を対立させるのではなく、両者を調和させようとする姿勢です。近代化の中で失われがちな精神の豊かさを、空間の在り方を通して取り戻そうとする志。その姿勢は、現代社会においてこそ再評価されるべきものではないでしょうか。



「洗心亭」



「エルヴィン・フォン・ベルツ」

もう一人群馬にゆかりのあるドイツ人で忘れてはならないのが、医学者エルヴィン・フォン・ベルツです。ベルツは温泉に根付く湯治文化を医学的に検証し、その効能を科学的に評価するとともに、人と自然が長い歳月をかけて育んだ療養文化として欧州に紹介しました。合理の光を携えながらも、自然への畏敬と生活の知恵を尊重したその姿勢は、タウトの思想と深く通じ合うものがあります。

両人はいずれも異邦人でありながら、日本の中に普遍的価値を見抜きました。



そのまなざしは、時に私たち自身が見失いかけている足元の宝を照らし出します。同時に、明治の日本人が西洋の科学や技術を学びつつも、精神文化と自然との調和を守り抜いた姿勢にも、深い感銘を覚えます。外からの評価を謙虚に受け止め、自らを磨き高めた柔軟さと気概。そこにこそ、当時の日本の真の強さがあったのではないのでしょうか。



日本の伝統工芸と
機能的な洋風なデザインの融合

しかしこの百年、世界は効率や利便性、経済を優先する潮流の中にあります。技術は飛躍的に進歩する一方で、人と自然の距離は広がり、異なる価値観への寛容さもますます失われています。その行く末に、私たちは言いようのない不安を覚えます。

だからこそ今、タウトとベルツのまなざしを振り返る意義があります。自然を敬い、文化を守りつつ、外から学び進化する姿勢。それは過去の遺産ではなく、未来への指針であります。本講演は、歴史を学ぶ機会であると同時に、「これから私たちは何を守り、何を次世代へ手渡すのか」という問いを私たちに投げかけました。

高崎・少林山達磨寺が守り伝えてきた精神的遺産と、群馬に刻まれた日独交流の歴史。その重みを胸に、両国の絆と交流をさらに豊かに育てまいりたいと、強く決意する次第であります。

「Information」 少林寺達磨寺に残る緑の椅子について



群馬県の少林寺達磨寺に残った緑色の椅子は、通称「緑の椅子」と言われ、タウトの一番思い入れのあった椅子であると考えられる。1935年にブルーノ・タウトがデザインしたもので、仙台の工芸指導所に赴任していた時に2度図面を引き、高崎に来て最初に引いた図面であるようだ。また、さらにもう一度4度目の作図でも完成しなかったこの椅子。タウトは椅子の優美さを追求する余り、脚を極限まで細くしてから座り具合を試したため、背もたれを支える後ろ脚の一部が折れてしまう。これを水原徳言氏が修復し、緑色の塗装をし

て保存していたものを少林山達磨寺が譲り受けた。ベルリンに世界遺産（ジードルンク*）のアパートを築いた建築家が、日本では工芸指導をしながら過ごした日々の思いをこの緑の椅子は解き明かします。

*ジードルンクは色彩豊かなベルリンのモダニズム集合住宅群。馬蹄形の独創的なデザインと自然環境に配慮した設計で現代も住み継がれている



2.(1)「第10回ドイツフェスティバル in ぐんま」を終えて

ドイツフェスティバル in ぐんま実行委員長 平方秋夫



昨秋、11月1日(土)・2日(日)の両日にわたって「第10回ドイツフェスティバル in ぐんま」が群馬県庁県民ホール・県民広場をお借りして開催されました。県の担当部署であります地域外交課の皆様には陰に陽に、お世話をいただき、感謝に堪えません。この第10回の節目では、これまでのフェスティバルでやらなかったこと、例えば、準備や片付けの場で外部の力をお借りすることを考えました。そこで大学生のボランティア、シルバー人材の人々、そしてアルバイトの約20名の外部の人々を募集し、お手伝いをお願いしました。皆さんとても立派に任務を遂行してくださり嬉しく思いました。

次に考えたのは当日の出店者を増やすことでした。初めての試みとして陶豆屋さんのお世話によりコーヒースタンドの設置が出来ました。そして屋外ではキッチンカーの業者をお願いしました。結果として出店数は前回より増え、かなり賑やかな出店風景が見られました。

「第10回ドイツフェスティバル in ぐんま」の記念式典が11月1日(午後1時~1時30分)に行われました。北ホールの特設ステージでは、背景の大画面のスクリーンが今年の夏に修理を終えステージに華やかさを添えました。ドイツ大使館からは文化課長さんのビデオメッセージが届き、20年の歴史あるドイツフェスティバルに対する祝辞をいただきました。来賓として、群馬県副知事様、前橋市スポーツ観光部長様、沼田市副市長様、草津町観光課長様をお迎えして、皆様よりお祝辞をいただきました。式典の終わりには、鈴木克彬名誉会長に対しドイツ連邦共和国より贈られた勲章の受賞式風景も写真で同時に披露されました。



今回のフェスティバルのテーマは実行委員会のメンバーから募集した結果、並木豊さんの作品「ドイツ音楽とメルヘンの世界へようこそ!」が選ばれました。これはパネル展のテーマが「グリム童話」についてでしたので、それにちなんで作られたものと思



われます。合わせて南ホールの展示コーナーでは、ドイツ大使館作成のパネル展「音楽のちから」や小中学生の絵画コンテスト「私のドイツ」出品作品展、グリム童話の読み聞かせや紙芝居(石原瑞穂さん制作)、クマさんつくりの会の人達の力作、それに初めての試みとして、グリムグッズの販売(細井玲子さんデザインのタオル、エコバッグ、クリアファイル、絵葉書)も行われました。



同時に、ステージでは二日間、ほとんど休みなく地域の有志の皆さんの音楽演奏で日ごろの活動の成果を聴くことが出来ました。子供たちのハンドベル演奏で始まり、高校生の吹奏楽や中学、



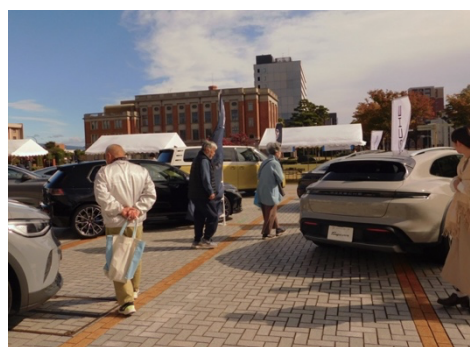
高校生の弦楽団の演奏、そして各種コーラスグループの美しい歌声やアコーディオングループ、プロのトロンボーンの演奏まで、楽しさ満載のステージパフォーマンスが繰り広げられました。



最後になりましたが、恒例になった玄関前県民広場でのドイツ車の展示販売会では好天にも恵まれ、若い人達が興味津々。キッチンカーで初めてのドイツの B 級グルメを買って昼食、秋の好天の元で、三々五々楽しまれている様子がうれしく感じられた二日間でした。

そももう一つ忘れてはならない事は、ホームページとフェイスブックの存在でした。誰でも見られるホームページや SNS は当日から遡ること 1 カ月以上前に、すでに「ドイツフェスティバル in ぐんま」の特設ページを開設し、このイベントを広く一般の人々にも周知してもらう努力を続けていました。担当して下さったのは前回の実行委員長・井上晃良さんと瓜生郷子さんです。当日はスマホで情報を見ながら会場を回る人々をたくさん目にしていました。

それぞれの係に携わってくれた会員の皆様、出店くださった各店舗の皆様、そして当日会場までお出かけ下さった群馬県民の皆様に、改めて感謝を申し上げます。(完)



感謝の意を込めての出店者一覧

黒田人形店	前橋市千代田町2-7-17	シャトア	前橋市千代田町 2-7-14
陶豆屋	高崎市石原町3235	グランボア	前橋市川原町2-13-5
仲沢酒店	高崎市八千代町1-12-4	福豚の里とんとん広場	前橋市三夜沢町534
本の家2	前橋市本町1-2-9	ベッカライウラノ	長野県中野市ミツ和783-1
ミルハウス	高崎市下小鳥町298-4	楽歩堂	高崎市緑町4-7-7
南雲時計店	新潟県南魚沼郡六日町41	キッチンカー Bow Wow	
ベッカライカツツエ	前橋市下小出町1-28-18		

2. (2) パネルの作成について「グリム童話」

会員 並木 豊

1 テーマ

「現代に生きるグリム童話」と題して、各自が原稿を作成しました。

2 項目

下表のとおり事務局から項目が示され、5人の会員が分担して原稿を作成しました。

「8 ヤーコプ・グリムを訪ねた3名の日本人」は、令和6年11月に講演「現代に生きるグリム童話」の講師を務めていただいた、とちぎ日独協会の会長で日本グリム協会会長の橋本孝先生の提案によるものです。

また、その他の「有名な物語の紹介とその方法」は、赤ずきんと白雪姫を紹介しました。

表 パネルの項目

- | |
|---|
| 1 グリム童話とは |
| 2 グリム童話とインソップ童話 |
| 3 グリム兄弟の生きた時代 |
| 4 グリム兄弟の生活した場所 |
| 5 取材源と物語の題材になる話の聞き取り（書き換えとその傾向を本項目に含める） |
| 6 受け入れと影響・ドイツ編（現在のドイツの家庭、幼稚園、学校、その他でどのようにグリム童話が読まれているか、現状の調査） |
| 7 受け入れと影響・日本編（内容はドイツ編に同じ） |
| 8 ヤーコプ・グリムを訪ねた3名の日本人（1862年の文久使節団との関係） |
| （その他）有名な物語の紹介とその方法 |

3 進め方

パネルの原稿作成を担当する者などが Zoom による web 会議で打合せを行ったり、電子メールで指示を受けながら、各担当者は作業を行っていました。

まず、令和7年2月に担当チーフから、パネルのサイズ、枚数の目安、項目、今後の進め方等の説明がありました。その後、各担当者の希望を踏まえて担当項目を決定し、各自が作業を行いました。

同年6月には、担当チーフから11月のフェスティバルに向けての細かいスケジュールが電子メールで示されました。そして、9月には原稿が出揃いました。

4 特徴的なこと

完成したのはA1判25枚のパネルですが、内容の特徴としては次の2点が挙げられます。

- ① パネルの枚数が25枚に及んだため最後に結論を記載せず、各項目で結論を記載したこと。
- ② 日本やドイツに居住する人達を対象にアンケートして、グリム童話に関する関心度、認知度の高さを実感するに至ったこと。

2.(3) 紙芝居・絵本の読み聞かせ

高野 誠

高野広美

今回のドイツフェスティバルのテーマの一つである『グリム童話』の紙芝居・絵本の読み聞かせを夫婦でやらせていただきました。



2日間、午前と午後に2回ずつ、合計8回行いましたが、毎回、幼いこどもたちが真剣なまなざしで見聞きしている姿を見ながら、やって良かったと感じました。きっと、こどもたちそれぞれが小さな心の中で様々な想像を膨らませながら、童話の世界に浸っていたのだと思います。

紙芝居『赤ずきん』のイラストは石原瑞穂さんに、文章は大木静花さんにそれぞれ作成していただきました。プロの手により素晴らしい作品に仕上げていただきましたので、是非また活用したく自宅で大切に保管することにしました。

成田美和さんには式典担当でご多忙な中、写真のような素敵な案内板を全て手作りしていただきました。



皆様のお力添えのおかげで、未来を担う多くのこどもたちにグリム童話を紹介できました。その小さくて純粋な心の中に何か残せたとしたら、幸せなことです。皆様に心からの感謝を申し上げます。『次回のフェスティバルでもやってみたい』、そんな思いが今でも残るグリム童話の紙芝居・読み聞かせてした。

2.(4) 大使館コーナーの展示

大使館関係コーナー担当 岡 博子

○ドイツ大使館パネル「音楽のちから」展示

ドイツ連邦共和国大使館では、一昨年にベートーヴェンの交響曲第九番初演 200 周年を記念し、「ドイツ・ボンのベートーヴェン・ハウスで開催された特別展「音楽のちから」の一部を、ドイツ語と日本語の展示用パネルとして制作し巡回展を企画しました。そのパネルをフェスティバルに合わせてお借りし展示いたしました。

全 13 枚のパネル展示では坂東俘虜収容所(徳島県鳴門市=当時坂東町)で上演された演劇や音楽作品をはじめ、1918 年 6 月 1 日、日本初演となったベートーヴェンの交響曲第九番の演奏会プログラム(デザイン的にも優れた当時のプログラム)の一部や、ベートーヴェンの自筆譜も紹介されていました。管弦楽演奏会や演奏講演のプログラムや写真から、当時の坂東俘虜収容所での文化的な生活を知ることが出来ました。



来場者の方からは
下記のような言葉が
寄せられました。(抜粋)

・あの時代に俘虜収容所にあっても「第九」が演奏されたことに驚かされます。

「文化の力」「音楽ちから」って素晴らしいですね。

・坂東俘虜収容所のことは このパネル展で初めて知りました。音楽が人と人をつなぎ遠い異国の地でのなぐさめやいやしになったこと

と想像します。(5・60代)



・俘虜を人間として処遇した当時の日本人への敬意(vs 第二次大戦の鬼畜米英の日本人)

俘虜の立場でありながら文化的な素養を基盤として演奏会の日本人への公開や日本人に対する音楽指導などドイツ人を支える音楽のちからを感じました。(坂東収容所を訪れたこともあります) (70 代以上)

・このような歴史があったことをこの歳になるまで知りませんでした。改めて今回の企画 よかったです。(70 代以上)

・第 1 次大戦中のこの出来事は知らなかったのととても新鮮でした。当時の写真がもっとあればさらに当時の状況がわかるかもしれません。

・内容がドイツ祭りだけの展示にしてはもったいないので できれば県庁にこのまま残してもらってもよいのではないのでしょうか。音源があれば音源も聞きたいです。(3, 40 代)

- ・ありがとうございます。できればその後のことについて記載があるともっと良かったなと思います。(70代以上)
- ・貴重な写真の資料があって視覚的に刺激がありました。(5・60代)
- ・戦争はいやです。(70歳以上)
- ・昔 こんな事実があったことを知りませんでした。むずかしそうなパネルだと見ていたけれどちゃんと読んで良かったです。(10代)
- ・おもしろかった(^^)ボンのベートーベンのことをしていたから ないようがけっこう分かった。日本はとうじ力があつたことがわかった、音楽の力はすごいと思いました。(10歳未満)
- ・忠臣蔵の曲が聴いてみたいです。(3・40代)
- ・日本とドイツの関係が大変良く分かるパネルでした。(70代)
- ・俘虜収容所でこんなに文化的な生活をしていたとは思いませんでした。良かったです。(5・60代)
- ・12月になると日本の各地で第9の演奏がされていますが、背景にはこのようなことがあると初めて知りました。(3・40代)
- ・とてもよかった(70代以上)
- ・Das ist gut. Ich lernte Deutsch und singe Sang“Die Neunte“
Ich will nach Bando(Shikoku)besuchen. (80代)
- ・Es war ein interessantes Panel. Vilen Dank.(70代以上)
- ・小さいものでも良いのですが、パンフレットにして配布して欲しいです。(5・60代)

大使館パネルはドイツフェスティバル展示後、前橋市中央公民館ホワイエでも3日から14日まで展示をし、多くのみなさまに鑑賞いただきました。連日通ってじっくり見てくださった方もおられました。

大変な時代に起こっていた出来事、日本とドイツの関係を知る上でとても貴重なパネルでした。音楽愛好家のみならずたくさんの方が歴史的事実を認識する良い機会だったと思います。

○大使館主催絵画展「私のドイツ」2024 年応募作品の展示

2024 年の大使館主催絵画コンテスト「わたしのドイツ」に応募した県内小中学生の作品 178 点を展示しました。

会場にはたくさんの児童・生徒のみなさんと保護者のみなさんが来場し、自分の作品とともに写真を撮られているほほえましい姿を見ることが出来ました。

また多くの来場者から「コンテストについては知らなかった」「自分の地域にも紹介してほしい」などのお言葉をいただきました。



そして来場者の方々から次のような感想をいただきました。(抜粋)

- ・子ども達が良くドイツのことを知っていると思いました。
- ・未来の世界平和につながる、大切なことだと思います。これからも日独協会の一事業として大切にぜひ続けてください。
- ・子どもたちの「私のドイツ」絵画可愛くてすて

きてした。ずっとずっとこういう事業が続くといいですね。

- ・ドイツの様子や代表されるものなど、よくとらえ可愛かったです
- ・明るく楽しい絵が沢山、素敵でした。
- ・一生懸命描いているのが伝わり、とても素敵な作品でした。
- ・It has been so fun to look and see different parts of Germany in the pictures.

The artists used their imaginations and skills to make excellent works:

Thank you so machi. どうもありがとう! Danke schön!

・いつも子どもの絵を見に来るのが楽しみです。東京に行かなくても見られるし、家族で来られてじっくり写真を撮りました。

児童・生徒がドイツについていろいろ調べたり、考えたりして絵画展に臨んでいる様子がわかる絵ばかりでした。年々絵に深さが増しているようにも感じます。この事業を通して、一層ドイツに興味を持つ児童・生徒が増えてくれたらうれしい限りです。

○群馬県内でドイツの都市と姉妹都市の紹介

- ・沼田市⇔フュッセン市
- ・草津町⇔ビーティヒハイム・ピッシンゲン市と姉妹都市です。



フュッセン市ってどんなところ？



人口 約14,000人

面積 約43.5km²

ドイツ南部のバイエルン州に属す、2000年を超える歴史を持つ町です。市内をレヒ川が流れ、周辺を雄大な山脈に囲まれています。また、ロマンチック街道終着の町でもあり、多くの歴史的な建造物を所有し、中世の雰囲気色濃く残っています。



姉妹都市交流開始のきっかけ・・・

1995年9月、日本とドイツのロマンチック街道同士の交流をきっかけに提携を結びました。前年にフュッセン市の吹奏楽団が日本ロマンチック街道の市町村で演奏活動を行うため、沼田市を訪れた際、第二市長と観光局長が沼田市を気に入り、姉妹提携の話が一気に具体化しました。

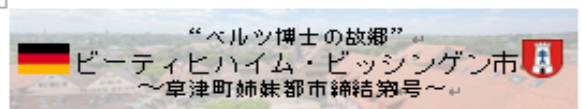
▶姉妹都市提携調印式（セントマツ修道院）
調印するフュッセン市（左）と沼田市（右）市長（左）と沼田市西田治司市長（右）



両市町の交流のきっかけやその歴史や交流の様子などを紹介いただきました。

来場者からは、こんなに長い間交流しているなんて知らなかった。2つの市や町が交流していたことを知らない。改めて沼田市や草津町を訪れてみたい。などの感想をいただきました。

来場者にドイツと姉妹都市を結んでいる市・町を知っていただける良い機会になりました。沼田市、草津町のご協力に感謝申し上げます。



ビーティヒハイム・ピッシンゲン市とは？

ドイツ連邦共和国バーデン・ヴュルテンベルグ州にある、エルウィン・フォン・ベルツ博士の生誕地であり、ワインや木製家具、建築床材（リノリウム）の生産が有名で人口は約4万人です。草津町では温泉の効能と高原気候のすばらしさを世界に紹介したベルツ博士の功績と遺徳を並び、1962年（昭和37年）に草津町の姉妹都市締結第1号として交流が始まり現在に至っています。



旧市街地



旧市街地



市場の噴水

エルウィン・フォン・ベルツ博士とは？

明治11年、明治政府の招聘をうけて東京医学校（現在の東京大学医学部）で教鞭をとるとともに、温泉治療を近代医学の立場で提え、日本の温泉地の本実あるべき姿について貴重な意見を述べるなど、啓蒙的活躍をなした偉人でした。草津温泉に関しては、その特異な泉質と入浴法、そして一帯の優れた環境に魅せられて度々来草し、「ベルツの日記」には「草津には、無比の温泉以外に、日本で最上の山の空気と、全く理想的な飲料水がある。もしもこんな土地がヨーロッパにあったとしたら、カルルスバードより賑わうことだろう」と記し大いに優秀な保養地として賞賛しています。草津町では昭和10年8月に西の河原公園内に顕彰碑を建立、傍らにはベルツ博士の胸像もあり、現在も訪れる多くのお客さまと草津町民を見守ってくれています。



肖像画



胸像



顕彰碑

2. (5) 手作りクマさんのお披露目

遠藤 みほ

第10回ドイツフェスティバルに参加させて頂きましてありがとうございました。

テディベアのテディとは26代大統領のニックネーム「セオドア・テディ」からとった名前です。女の子のお人形にかわる物として、男の子のぬいぐるみとされていました。テディベアにはきちんとした定義がありません。商標登録されたものではないので、どのクマさんでもこれは「テディベア」と言うことができます。

今回は「手作りクマさんの販売」を目標に掲げ、準備から片付けまで3日間交代をせずに携わり、ぐんま日独協会オリジナルグッズも販売させていただきました。大きな段ボールが幾つも運ばれ数量を確認して展示しました。売り切れなくても次回に回せるのでと気楽にありましたら売れ行きが良く、



お土産に・自分用に、と次々にお求めくださり、最後まで精を出すごうございまして完売でした。(タオルは少し残りましたが…)

「手作りクマさんの販売」は初めてです。

手触りの良い布、針通りの良い布を選びました。耳のバランスが難しい、目の位置が定まらない、鼻がベシヤンコになってしまう、などを呟きながら…色違いや大きさも様々で個性的なクマさんが丁寧に仕上がっていきます。「売れるのかしら…」「買ってくれる人がいるのかしら…」など思いながら臨みました。お披露目は展示品と販売品の雛壇飾りです。家族連れやお友達同士など、来場された方々はそれぞれ手にとって買い求める人が後を絶たず、殆ど1日で売れてしまい2日目は数が少なくなり、お詫びをしながらの販売でした。

♥ 展示品を手にした少女は「どうしても♡」と言って求めました。バイオリニストを目指している少女はモコモコのクマさんを抱いて「Danke schön」「Bitte schön」と交わしたドイツ語に、はにかみながらの明るい笑顔が印象に残ります。

♥ ある彼女はクマさんを手にしたたり離したりを繰り返していましたが…「～ちゃん♡」と名前を呼んで、嬉しそうに大事そうに抱えました。



満面の笑み

そんな来場の方々の「かわいい～」を老若男女で分かち合い、笑顔をたくさん頂戴して次回への励みになっています。

講師 鈴木和子先生のお手本「クマさん」に少しでも近づけますように…!! (^ v ^)

2.(6)ドイツフェス 初の珈琲販売

鈴木剛一郎

北ホールではお馴染みとなった顔ぶれの出店者に加え、ぐんま日独初めての取り組みとなるドイツ珈琲の販売を試みました。以前新潟長岡市で開催された長岡ドイツフェスティバルに出店していた「EILLES FAFFEE」（アイレス珈琲）ドイツつながりということで接点ができ、今回はじめて群馬での紹介となりました。



EILLES KAFFEE は「バイエルン王室&在日ドイツ大使館御用達プレミアム珈琲」このキャッチコピーの影響もあり大盛況でした。カップ珈琲販売は両日で400杯を超える数を記録で合わせて販売した珈琲豆も好評、そして「美味しいね」とコメントいただくお客様も大勢いらっしゃいました。

珈琲販売をお手伝いくださった新島短大の学生さん4名も手際よく作業をこなしてくれました。

今回この珈琲販売の売上金の収益分はぐんま日独協会の活動資金として計上することができました。この取り組みは是非今後も続けられたらいいなと感じました。

他、北ホールでは毎回好評のドイツパン販売、好評すぎて午前中のうちに完売、午後はブースが空っぽになってしまってちょっと寂しくなってしまう状況も… 次回は対策として午前の出店者と午後の出店者が、交代で入れるようにしたらいいかなと思っています。パンのバリエーションも午前と午後で変われば来場者にもワクワクが伝えられると考えます。



ステージでは音楽演奏、気持ち良いおなじみの音楽が会場に流れフェスティバルを更に盛り上げてくれました。



そしていつも感じるのですが会場作り、終了後の撤収作業には大変な労力と人手が必要です。

今回終了時には学生ボランティアのお手伝いがあり非常に助かりました。そして新しいつながりが生まれ、今後もぐんま日独とのパイプが広がるものと思います。

早い時期からの準備と当日の設営、そして終了後の後片付け、本当にお疲れ様でした。

2. (7) ぐんま日独協会オリジナルグッズの制作

瓜生郷子

第10回ドイツフェスティバル in ぐんまは、実行委員会を中心に企画から宣伝・・・何もかもを受けおって活動しました。おかげさまで高い評価を受けての閉会となりました。ただ、手一杯の状況で会員の皆様への伝達は手薄になってしまいました。その一つが、協会オリジナルグッズの制作でした。今年のパネル制作のテーマは「グリム童話の世界」でしたので、その中から「ブレーメンの音楽隊」に的を絞りイラストレーター細井玲子さまにイラスト、大木静花さまにチラシ制作を依頼しました。イラストはぐんま日独協会のオリジナルイラストとして使えるように著作権もいただき、フェスティバル開催の中でいろいろな形で使わせていただきました。線画はハガキサイズに印刷し

Die Bremer Stadtmusikanten



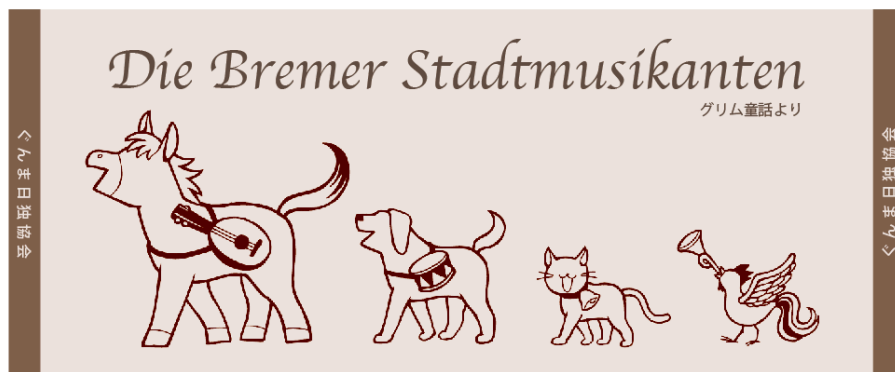
て子供たちにぬり絵として提供し、会場に張り出しました。そして目玉はぐんま日独協会のグッズを作り、販売することでした。これはぐんま日独協会がフェスティバルをはじめとする活動の資金不足を補う為の苦肉の策であり、実行委員が絞り出した知恵でした。どのような製品にこのイラストを載せれば売れるかを検討し、小型エコバック、クリアファイル、

フェイスタオル、絵葉書セットの4種類と決まりました。決定した製品には、ドイツ国旗や文字の工夫など、大木さまに多くのアイデアの提供をいただきました。フェイスタオルは素材や生産者も吟味して、今治産のジャガード織タオル 280 匁となりました。販売実績は初めての試みとしてはまずまずで、残ったグッズは次のフェスティバルで販売することとなりました。

またフェイスタオルは会員の皆様に、フェスティバル 10 回目の開催記念品としてお配りいたしました。

(まだお受け取りになられていない方にも、

ぜひ記念品としてお手元においていただきたいと思います)



2. (8) ステージ係を担当して

原 鏡

今回は、全部で 10 団体の参加があり、各グループが多彩なプログラムでドイツ音楽を奏でてくれました。小学生、中高生、大人の老若男女が、歌あり、様々な楽器あり、それぞれ特色ある演奏を披露して、ドイツ・フェスティバルを盛り上げてくれました。出演に当たっては、ドイツに因んだ選曲、30 分以内の演奏をお願いしました。出演者は 2 人のグループから 54 人の団体まで様々でした。

初日の土曜日は、「のんのん音楽教室」（会員の立川統子さん主宰）のハンド・ベルの美しい鐘の音から始まりました。続いて「コール・詩音」による混声合唱（指揮・原鏡）、午後 1 時からは「ドイツ・フェスティバル in ぐんま第 10 回記念式典」が盛大に執り行われ、その後、「コール・ブルーエ」の女声合唱（指揮・深澤節子）、「境アコーディオン・サークル」（代表・茂木澄恵）と続き、一日目の演奏は終了しました。

2 日目の日曜日は、新島学園中学校・高等学校弦楽部（代表・相川容子）の弦楽合奏から始まり、「コール・ドウ・ボテ」の女声合唱（指揮・後藤玲子）、「前橋第九合唱団」のベートーヴェン交響曲第九番の有名なメロディーの一節（指揮・高田葉月）、共愛学園中学・高等学校吹奏楽部（指揮・星野雄亮）、「Esta muy bonita ☆」（歌とフルート・赤澤薫、ギター・岡田淳）と続き、最後は「トロンボーン・アンサンブル」（代表・市村信持）の格調高い演奏で終了となりました。

各団体の演奏の合間には、ドイツ・サロンのオンデマンド（出演・セルマ・バーナート）を上映し、ステージコーナーでは常に人が途切れることなく賑わっていました。



聞いて下さったお客様の声として、「小さい子供連れでも周囲に気兼ねする事なく、音楽を楽しめた」「このフェスティバルの音楽を毎回楽しみにしている」との嬉しい感想をいただき、また会員や関係者からも「ドイツ・フェスティバルにはこの音楽コーナーは必要不可欠」など、大変好評で私達も励まされました。

出演者からは、「演奏中は分からなかったけれど、後で写真を見て、背景にドイツの風景が映っているのを知り、まるで演奏旅行に行った気分」「お土産のファイルが素敵」など、とても喜んでいただけたようで良かったです。また、「次回も出演させて下さい。今から練習頑張ります」と予約していった団体も

あり、とても嬉しく思いました。

お陰様で二日間とも充実した音楽ステージとなり、ご協力くださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。



2. (9) ステージ係を担当して（大型スクリーン）

瓜生郷子

2025 年第 10 回フェスティバル開催の少し前に県庁北ホールに大型スクリーンが設置されました。場所はステージとして使う予定の北ホールの一歩奥、演奏者の背中部分になります。県庁としても使用が初めてとのことで、双方探りながらの投影準備となりました。その大型スクリーンのビジョンのサイズは横 5,760mm×縦 3,360mm、投影できる素材は画像、動画ともに可能で、音声も流すこともでき、画面のサイズ比は 16:9 の情報を受けました。それとともに解像度：1920×1080 ピクセル以上の素材であることが望ましいとのことで、画面制作の条件である解像度との戦いが始まりました。私は写真の解像度などの知識はほとんどなく、また



投影したい素材には肖像権・著作権に抵触しないものを選ぶ必要がありました。しかしながら改めてドイツ関連の素材を探したり撮影したりする時間はない状態で自前の写真を使う手段しかないという結論で、今度は手持ちの写真の中で必要な解像度に達している素材選びとなりました。とりあえず低い解像度（iPhone）から高い解像度（一眼レフのカメラ）のものまでをパワーポイントに入れて、画面上でどの様に映るかの実験となりました。県庁のスクリーンが設置されている北ホールの現場で、県庁職員による機器の操作のもとに映像が映し出され、結果はピントがしっかり合っていればスマホで撮った 1.5～2.5MB でも美しく投影されることがわかり、皆安堵する次第でした。またパワーポイントで文字を入れて作ったもので問題ないこともわかり、本格的にパワーポイントを使って画面制作に入りました。

できたばかりのスクリーンですが、すでに手で触った場合におこるメッシュのつぶれなどもあり、黒い画面を使った時に現れた光の点などを、県庁職員の方がメモされていました。また白を基調とした素材の場合は写真撮影をすると乱反射してしまうことも、今回の初めての使用で分かったことでした。

今回使用した画像は世界遺産に指定されているバンベルグの街に流れるレグニッツ川沿い、「小ベニス」と言われる昔漁師さんたちの家並みが映る写真と、バイエルンの南東に位置する山「ホッホリース」から降ってくる時に撮影した、春の斜面に小さい花々が咲きオーバーバイエルン・アルプスが後ろに映り込んでいる写真を使いました。出演者は演奏中に後ろのスクリーンの映像には気がつかれなかった方が多かったのですが、お客様からの反応はとても上々、また出演者が演奏後に写真をご覧になり、好評を得ることもできました。また会場の雰囲気も明るくなり、ステージの休憩時間も 2 日目からはプログラムを投影することで、わかりやすいとのご意見もいただきました。



この様に色々な試みを経てのスクリーン画像制作でしたが、フェスティバルに色を添えることができて嬉しく思っております。

2. (10) 第10回フェスティバル記念式典を主催して

伊藤 ゆきえ

2025年11月1日群馬県民ホール北にて第10回記念式典を開催いたしました。
ここでぐんま日独フェスティバルの歴史を振り返ってみたいと思います。

- 第1回 2005年7月12日～18日 ～ドイツをもっと知ろう～
- 第2回 2007年7月12日～16日 ～ドイツを楽しむ・見る・感じる～
- 第3回 2009年7月16日～20日 ～本物のドイツに触れよう～
- 第4回 2011年9月23日～27日 ～ドイツファンになろう!!～
- 第5回 2013年5月31日～6月2日 ～日独交流のルーツを探る～
- 第6回 2015年6月26日～28日 ～歌って踊ってドイツを楽しもう～
- 第7回 2017年6月30日～7月2日 ～学ぼう 食べよう 遊ぼう ドイツ!!～
- 第8回 2019年6月28日～30日 ～知ろう、楽しもうドイツの文化～
- 第9回 2023年10月21日～22日 ～ひとあし早いあなたとドイツのクリスマス～
- 第10回 2025年11月1日～11月2日～ドイツ音楽とメルヘンの世界へようこそ～

第1回から10回までのドイツフェスティバルにはそれぞれテーマがあります。

第10回のテーマは「ドイツ音楽とメルヘンの世界へようこそ」でした。



記念式典には群馬県副知事様、沼田の副市長様等のご来賓をいただきました。ドイツ大使館よりビデオメッセージを頂き盛大な式典となりました。

両国の国歌斉唱は音楽担当により厳かに行われました。ドイツの方のご参加も多かったため、ドイツ国歌斉唱も良く響いておりました。

当日の投影担当のご尽力にお礼申し上げます。

司会進行は初めての経験という担当者でしたが、堂々とした進行は素晴らしい力強さを感じました。

「落ち着いたとても良い式典であった」とのご感想も頂きました。テーマを意識した大きな式典画像も好評でした。

今回、記念式典の担当をさせて頂きましたことに感謝申し上げます。

2.(11) 県民広場(含:キッチンカー)でドイツ車展示

北爪 史郎

秋晴れに恵まれたドイツフェスティバル当日、来場者の方々が県民広場にて展示されたドイツ輸入車に目を留められていました。メルセデスベンツや BMW、フォルクスワーゲンなどの名前に関しては、



日ごろ我々はよく耳にし、道路で走行しているのを見かけたりします。けれども、車の性能などについて、深く考えることはあまりないと思います。そのため、このような場で、来場者にディーラーの方々と話す機会が与えられたことは、貴重であるように思えました。とりわけ車に興味をお持ちの方にとっては、輸入車の存在が、ドイツ文化に興味を持ち、ドイツとの懸け橋になる可能性もあります。

その他、キッチンカーにてカーイヴルストが販売されていましたが、こちらも大盛況でした。NHK・E テレにて『しあわせ気分のドイツ語』という名の番組が放送され、その中で、カーイヴルストがベルリンで売られている場面がありました。私は現物を食べたことはありませんが、番組の中で食べている人の感想を聞くと、相当辛いながらもおいしいとのことでした。

県民広場でも、キッチンカーの前にお客様の列が作られ、同時にカーイヴルストを焼いているS氏と奥様の二人三脚で、仕事に励んでいる場面が見受けられました。

ドイツの代表的な食べ物と言えば、ソーセージであり、カーイヴルストに関しては、我々日本人には、まだなじみが薄いかもしれません。そのため、今回のキッチンカーでの販売が、多くの人にカーイヴルストの存在を知ってもらうための良い機会になったと思います。



販売終了後には、S氏から、かつてカナダからアメリカにかけて大陸横断鉄道に乗車したことなどの経験談やフェスティバル終了後には、販売のために他県に移動することなどの話を聴くことができました。

私の今回の反省点としては、お客様からフェスティバルの催しなどについて質問されたとき、適切に回答できませんでした。そのため、今後はこのような場面に遭遇しても、即座に対応できるように、下調べなどをしていこうと思っています。

3.(1) 12月・1月・3月のドイツサロン

宮原喜利雄

今年最後12月のドイツサロンはいつもの豆陶屋さんで、ドイツパティシエ Hans Teutschbein による『ドイツのペストリーの伝統 - 文化の味』と題してのプレゼンテーションでした。

彼はウルムの生まれ育ちで現在27歳、ドイツで3年間職業学校に通い週2日を専門理論や経済を学び、他の日は専門の企業で働き職人の師匠から指導を受けました。三年間を終了して試験を受けて合格、パティシエの資格を取得しました。中世から現代にいたる製菓職人の歴史や文化の紹介、コーヒーとケーキ文化の伝統と習慣、そして様々に地方色豊かなケーキを写真で紹介されて喉から手が出そうでした。



1月のドイツサロンはドイツ人ゲスト Melanie Schäfer さん 東京日独協会研修生にプレゼンテーションをして頂きました。『南ヘッセンで数千年にわたる旅にゆこう』と題してフランクフルト空港を中心とした地方の観光地を紹介していただきました。4700 万年前の化石、ローマ帝国の国境だった要塞遺跡、グリム兄弟の故郷ハーナウに在るフィリップスルーエ城、フランクフルトのゲーテの家。そして温泉地のバート・ナウハイムなどなど、旅行の起点にして通過してしまいそうな各地の観光地を紹介していただきました。



ゲーテハウス 内部

3月のドイツサロンはドイツ人ゲスト Marcel Back さん 栃木県下野市国際交流員に「わたしのこと&ふるさとのハイデルベルク」のテーマでお話を伺いました。交流員らしくドイツクイズなども交え、ザックバランな質疑応答で、高速道路のスピード制限などいろいろな話題が飛び交いました。

3. (2) 講演会「ブルーノ・タウトと少林山達磨寺」

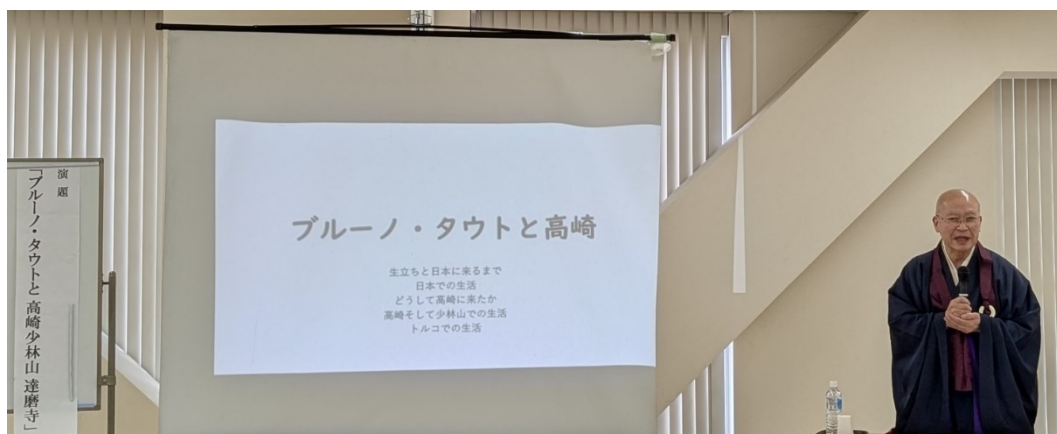
成田美和

令和8年2月7日、少林山達磨寺の廣瀬正史ご住職を講師にお迎えし、演題：「ブルーノ・タウトと少林山達磨寺」をテーマとした講演会が開催されました。ぐんま日独協会員をはじめ、40名以上の方が参加し、関心の高さがうかがえました。

ブルーノ・タウト(1880–1938)は近代ドイツ建築の先駆者で、代表作であるベルリンのブリッツ地区の馬蹄形住宅(Hufeisensiedlung Britz)は、2008年に「ベルリンのモダニズム集合住宅群」の一部として世界遺産に登録されています。建築を通じ社会改革を志していたタウトは、1933年1月のヒトラー政権掌握により身の危険を感じ、同年3月にドイツを離れ来日。1936年までの日本滞在中の約2年3ヶ月を少林山達磨寺の洗心亭で過ごしました。当時、タウト夫妻を受け入れたのが、廣瀬住職の祖父である廣瀬大蟲和尚です。講演では、たくさんの写真やタウトの日記、資料などを交え、東プロイセン・ケーニヒスベルクに生まれたタウトが建築家となり来日するまでの経緯、日本での生活、地域住民との交流、そしてトルコで客死するまでの生涯についてお話いただきました。

私は学生時代に、日本と西洋の建築構造・素材などの違いについて学びました。日本建築が『間』を重んじ、障子などで柔らかく空間を仕切り、音を包み込むのに対し、西洋の石造建築は壁で空間を区切り「音を遮断」することを重視する。そうした差異は美意識や宗教観にも通じる。後にドイツの旅でケルン大聖堂の荘厳美に圧倒され、足音が響く石畳の道を歩き、日本建築との大きな違いを体感しました。2011年12月、ドイツサロンのドイツ人ゲストと一緒に洗心亭の中に入れていただきました。平屋造りの六畳と四畳半の二間のみの住居は、簡素でありながら凛とした余白の美を感じました。

禅の信仰は、自分自身の心を見つめ、整え、磨くことに価値を置く「精神の統一と静寂の美学」だそうです。廣瀬住職は、「タウトは座禅をされていないが、日記を読むと信仰を理解していたように感じる」と話されました。日課として寺周辺を散策したタウトは禅の精神に通じる思索を重ね、日本建築の美を深く理解していました。境内には「ICH LIEBE DIE JAPANISCHE KULTUR(私は日本文化を愛す)」との碑があります。1936年10月、日本を立つタウトは「私の骨は少林山に埋めさせてほしい」と言葉を残したそうです。村人たちに見送られるタウト夫妻の写真は、彼らがいかに愛され、日本を故郷(ハイマート)のように思っていたかを物語っています。今回の講演を聴き、ブルーノ・タウトという人物を通して日本の魅力を再認識する機会となりました。



4.日本百名山 独訳 - 連載 16

深田勝弥 会員

77 甲斐駒ヶ岳 (2966 米) *Kaikomaga-dake (2966 Meter)*

77-01

東京から山の国甲斐を貫いて信州に行く中央線。私たち山岳宗徒にとって最も親しみ深いこの線路は、一たん甲府盆地に馳せ下った後、今度は釜無川^{かまなしがわ}の谷を左手に見下ろしながら、信州の方へ喘ぎながら上って行く。さっきまで遠かった南アルプスが、今やすぐ車窓の外に迫ってくる。甲斐駒ヶ岳^{かいこま}の金字塔が、怪異な岩峰摩利支天を片翼にして、私たちの眼を驚かすのもその時である。汽車旅行でこれほど私たちに肉薄してくる山もないだろう。釜無川を距てて仰ぐその山は、河床から一気に二千数百米も突きあげているのである。



Die Linie *Chuoh* von Tokyo durch das Land Kai bis *Shinshu*. Wir Gläubigen an das Gebirge treten mit dem Zug am ersten in das Becken Suwa ein, und hinunterblicken links zum Fluss *Kamanashi*. und keuchend, fährt der Zug nach *Shinshu* aufwärts. Die südlichen Alpen, die bis vorhin fern war, jetzt wieder nahe vor dem Fenster kommt. Die Pyramide des Berges „*Kai-komaga-dake*“ war gerade dabei, uns überraschen, mit dem grotesken Felsenspitze *Marishiten* links. Es mag außer kein solchem Berg sein, so nahe zum Zug kommen. Der Berg von hier über den Fluss *Kamanashi* zum geblickt, ist er über mehr zweitausend Meter hoch aus dem Fluss.

77-02

日本アルプスで一番代表的なピラミッドは、と問われたら、私は真っ先にこの駒ヶ岳を上げよう。その金字塔の本領は、ハケ岳や霧ヶ峰や北アルプスから望んだ時、いよいよ発揮される。南アルプスの巨峰群が重畳している中に、この端正な三角錐はその仲間から少し離れて、はなはだ個性的な姿勢で立っている。まさしく毅然という形容に値する威厳と品^{ひん}をそなえた山容である。

Wenn ich gefragt werde, was typische Pyramide in den japanischen Alpen ist, antworte ich am ersten, diesen *Kai-komaga-dake*. Sein Wesen der Pyramide zeigt sich mehr als von *Yatsuga-dake* (64), von *Kirigamine* (62) und von den nördlichen Alpen geblickt. Er ragt mit der persönlichen Haltung, ein wenig fern von vielen Bergen in den südlichen Alpen. Seine Gestalt hat bestimmt die entschlossene Würde.

77-03

日本アルプスで一番綺麗な頂上は、と訊かれても、やはり私は甲斐駒をあげよう。眺望の豊かなことは言うまでもないとして、花崗岩の白砂を敷きつめた頂上の美しさを推したいのである。信州ではこの山を白崩山^{しろくずれ}と呼んでいたが、その名の通り、遠くから白砂の峰に見えるのである。私が最初にこの峰に

立った時は、信州側の北沢小屋から仙水峠を経、駒津峰^{こまつみね}を越えて行った。六方石と称する大きな岩の傍を過ぎると、甲斐駒の広大な胸にとりつくが、一面に真白に砂礫で眼映いくらいであった。九月下旬のことでその純白のカーペットの上に、所どころ真紅に紅葉したクマコケモモが色彩をほどこして、さらに美しさを添えていた。ザクザクと白い砂を踏んで、頂上と摩利支天の鞍部へ通じる道を登って行くのだが、あまりにその白砂が綺麗なので、踏むのがもったいないくらいであった。南アルプス中で、花崗岩の砂礫で美しいのは、この甲斐駒とお隣の鳳凰山だけである。

Wenn auch ich gefragt habe, was am schönsten Gipfel in den japanischen Alpen ist, antworte ich der *Kai-komaga-dake*. Es ist natürlich wegen seiner Schönheit des Gipfels, dazu möchte ich hinzufügen, dass der Gipfel von weißem Sand aus Granit bedeckt wird. Im *Shinshu* hat man diesen Berg *Shiro-kuzure-yama* (der weiß zusammengefallene Berg) genannt. Von fern geblickt, ist der Berg so weiß zu sehen, wie sein Name. Bei meinem ersten Bergsteigen, war ich von der Hütte *Kitazawa* in der Seite von *Shinshu*, durch den Pass *Sensui*, über den Spitz *Komatsumine* gegangen. An dem großen Felsen namens „*Rokuman-goku*“ vorbei gegangen, erreicht ich den großen Bergabhang. Der weiße Kies hier wie blendet mich. Ende Septembers ist das Laub rot geworden. Auf den weißen Kies tretend, gehen wir zum Sattel zwischen dem Gipfel und *Mashiriten*, wo der Sand so schön ist, dass ich zu treten zögern muss. Im südlichen Alpen der schöne Kies aus Granit sind nur dieser *Kaikoma* und der Nachbar Berg *Ho-ohsan*(79).

77-04

頂上に花崗岩の玉垣をめぐるした祠のほか、幾つもの石碑の立っているのをみても、古くから信仰のあつかった山であることが察しられる。祭神は大己貴命^{おおむなちのみこと}で、昔は白衣の信者が登山道に続いたものだという。その表参道ともいべきコースは、甲州側の台ヶ原あるいは柳沢から登るもので、両登山口にはそれぞれ駒ヶ岳神社がある。この二つの道は、山へ取り掛かって間もなく一致するが、それから上、頂上までの道の途中に、鳥居や仏像や石碑が点綴^{てんさい}されている。

Auf dem Gipfel kann man vermuten, dass der Berg seit langem glaubwürdig ist, weil außerdem der von dem Zaun aus Granit umgegebene Schrein ist, und viele Gedankensteine stehen. Der Gott ist *Ohna-muchino-mikoto* genannt. In früheren Zeiten, sollten viele Gläubigen mit weißer Kleidung auf dem Bergpfad hinaufsteigen. Es gibt zwei Routen um zu besuchen, die Eingänge sind *Daiga-hara* in der Seite *Koshu* und *Yanagisawa*, vor jedem Eingang ist der Schrein *Komagadake*. Diese zwei Pfade vereinigen sich in Kurzen, jedoch dahin, unterwegs zum Gipfel, hier und dort Toriis und Statuen Buddhas und Gedankensteine.

77-05

日本アルプスで一番つらい登りは、この甲斐駒ヶ岳の表参道かもしれない。何しろ六百米くらいの山麓から、三千米に近い頂上まで、殆んど登りずくめである。わが国の山で、その足許からてっぺんまで二千四百米の高度差を持っているのは、富士山以外にはあるまい。木曾駒ヶ岳は、木曾からも伊那側からも、それに近い高度差を持っているが、登山道は緩く長くつけられている。甲斐駒ほど一途に頂上を目がけてはいない。

Der am härtesten Aufstieg in den japanischen Alpen kann der förmliche Pfad *Kaikoma* sein. Weil der Pfad vom Fuß 600 Meter hoch bis nahe 3.000 Meter fast nur ganze Steigung ist. In Japan mag der Berg, der vom Fuß bis den Gipfel die Höhendifferenz 2.400 Meter ist, kein außer *Fuji* (72). *Kiso-komaga-dake* (74) würde seine Höhe aus *Kiso* oder aus *Ina* zum Gipfel gemessen, ist die Differenz der Höhe klein, aber der Bergpfad wird sanfter und länger verlegt. Deshalb ist dieser Pfad nicht so steiler als *Kai-komaga-dake*.

77-06

甲斐駒の表参道は、途中の黒戸山あたりの弛^{たる}みを除けば、あとは急坂の連続である。上へ行くにつれて傾斜は激しくなり、険^{けわ}しくなり、梯子や鉄の鎖や針金などが次々とあらわれる。山麓から一日で頂上へ達するのは普通不可能であって、五合目あるいは七合目の小屋で一泊しなければならない。

Der förmliche Pfad des *Kaikomas* ist, außer der Schlaffheit bei *Kurotoyama*, die Serie der steilen Steigung. Je höher wird, desto steiler wird. Die Leitern, die Eisenketten und der Draht sind nacheinander aufgestellt werden. Es ist normal unmöglich, in einem Tag vom Fuß bis Gipfel aufzusteigen. Steiger müssen in der Hütte am fünften oder siebten Höhenpunkt übernachten.

77-07

わが国には駒ヶ岳と名のつく山は多いが、その筆頭は甲斐駒であろう。西にある木曾駒ヶ岳と区別するために、以前は東駒ヶ岳と呼ばれたが、今は甲斐駒で通っている。山名の由来は、甲州に巨摩郡^{こまぎ}、駒城村などの地名のあるところから推しても、かつて山麓地方に馬を産する牧場が多かったので、それに因んだものと思われる。

In Japan sind viele Berge namens *Komaga-dake*. Darunter mag *Kaikoma* der erste Platz sein. Um *Kaikoma* von *Kisokoma* im Westen zu unterscheiden, war er früher *Higashi* (östliche)-*komagadake* genannt, doch jetzt gilt er *Kai-komaga-dake*. Ich vermute die Herkunft des Namens Koma, dass weil das Land *Kohshu* vielen Wiesen, die Pferde (Koma) gezüchtet war. Und auf gleiche Weise gibt es auch das Dorf *Komaki* und *Koma*.

77-08

甲斐駒ヶ岳は名峰である。もし日本の十名山を選べと言われたとしても、私は、この山を落とさないだろう。昔から言い伝えられ崇められてきたのも当然である。この山を讃えた古い漢詩を一つ最後にあげておこう。「駒ヶ岳ヲ望ム」と題し、僧海量の作である。

甲峽ニ連綿トシテ丘嶽重ナル

雲間独り秀ズ鉄驪^{ひい てつり}ノ峰

五月雪消エテ絶頂^{うかが}ヲ窺エバ

青天ニ削出ス碧芙蓉

言うまでもなく鉄驪ノ峰とは甲斐駒のことである。これは甲州側から詠じたのだが、信州側からすれ

ば、碧芙蓉でなく白芙蓉ということになろうか。

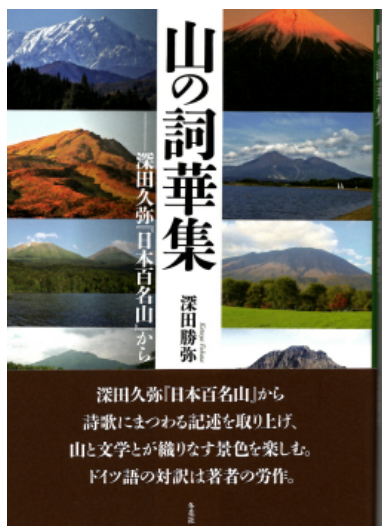
Der *Kaikoma-dake* ist schöner Berg. Wenn auch ich zehn schöne Berge auswähle, lasse ich ihn nicht durchfallen. Zum Schluss will ich hier ein chinesisches Gedicht mit dem Titel „zum *Komaga-dake* geblickt“ von Priester Kairyoh vorstellen.

In *Kohshu* überlagern
sich die Berge und Gipfel.
Die Eisenspitze ragt allein
In die weißen Wolken auf.
Jetzt Mai, der Schnee geschmolzen,
Zu dem Gipfel aufgeblickt,
erscheint am blauen Himmel
die grünen Lotusblüten.

Natürlich zeigt „die Eisen Spitze“ den *Kai-koma*. Das Gedicht würde, von *Kohshu* geblickt, geschrieben. Wenn es von *Shinshu* würde, wäre der „keine grünen Lotosblüten“ vielleicht sondern „die weißen Lotusblüten“.

Januar 2026

事務局註：深田勝弥会員は、作家故深田久弥氏の甥という関係から名著「日本百名山」の独訳に挑戦されました。北海道から南下しながら掲載しますが、百座を網羅する時間とスペースがないため一定地域に偏らないように選択しながら進めております。一旦は 62 号で完となりましたがもう少し続けていただけることになりました。



なお、深田会員が5年かけてドイツ語版を完成させた経緯が、故深田久弥氏の地元の北国新聞（2020年10月25日付）、上毛新聞（2020年11月18日付）、朝日新聞（2020年1月17日）に紹介されました。

初版刊行後、電子書籍での発行を薦められ、2023 年には「日本百名山」の詩 と表題がつけられて電子書籍でも発行されております。

ぐんま日独協会事務局に深田会員から頂きました「山の詩華集」がございます。
貸し出しもできます。貸し出しご希望の方は事務局へご連絡ください。

5.ドイツ・ハンブルグの通勤電車 ET474のデザインスタディ(1)

井上晃良

車両デザインの実務作業は目に見えないところが多く、その実際はなかなか伝わってこない。

そこでここでは、ドイツでの実例をもとに、車両デザインがどのように行われているのか、実際の形式に則して見ていくことにする。

それは企業実習から始まった

1991年3月1日早朝、私は西ドイツミュンヘン中央駅からほど近い Arnulfstrasse (アーヌルフ通り) にある巨大な石造りの歴史的建物の前にいた。これから始まる企業実習初日、まだ吐く息も白い寒さも厳しい冬の日に期待と不安が入り交じっていたのである。

1989年、西ドイツで唯一のトランスポーターデザイン学科を有する美術大学であるフォルツハイム造形大学に入学した私が履修科目にプラクティウム(企業実習)という項目があることを知ったのは、入学直後のこと。通常はこの実習を行うことが卒業単位に必修科目として義務づけられていて、4年8学期の全学期の中で7学期に行うのが普通である。

ただ、私の場合は Aufbaustudium (上築課程) と呼ばれるカリキュラムのため、8学期のうち後半4学期のみ履修することで卒業資格を得られることもあり、実習は卒業単位に含まれない。また、私の場合は日本国内で2年半ほど企業でデザイナーとしての実務経験があることから実習なしでも卒業可能であった。しかし、企業実習を終えて帰って来た先輩の様子をみると、実習前と比較して一段と作品レベルが向上しているのがわかる。また、実習を通して卒業後の就職に役立つ人脈も築けることもあるとのこと。



▲▲ DB デザインセンターは、ミュンヘン中央駅から程近い場所に DB の連邦鉄道中央局 (BZA) 内にあった。(現在は、Apple Computer が入居している。)

そのようなウワサを耳にすると、私自身もせっかく大学で実習の制度があるのなら体験してみたいという気持ちがムクムクと湧き出てきて、卒業が半年遅れても自身のためにはなと考え、実習を行うことにした。日本とは異なり、実際に学生は様々な理由で卒業を遅らせているのがごく普通の光景であった。

そこで、私はかねてより希望している鉄道車両のデザインを行うことを決意し、ドイツ連邦鉄道(DB)デザインセンターか、私が尊敬しているデザイナーであ

るノイマイスター氏の主宰するノイマイスターデザインのどちらかにしようと考えた。

もし、車両デザインのみを望むのであればノイマイスターの事務所は最適である。一方、トータルに鉄道デザインを学ぶのであれば、DB デザインセンターが良いであろう。場所はともにバイエルン州の州都ミュンヘンである。あのビールで有名な観光地でもあるから、知らない日本人はいない大都市である。

そこで、鉄道はトータルにデザインすべきであると思いつねづね感じていた私は、最終的に DB を選んだ。担当教授に相談し、DB デザインセンターのコンタクト先を紹介してもらい、また大学の友人に手伝ってもらいながら手紙で連絡を取り、ほどなくその許可が下りた手紙を手にする事ができた。

実習開始

実習は、1991 年 3 月から始まった。ミュンヘン中央駅から S-Bahn の次の駅である Hackerbrücke 駅が最寄り駅である DB デザインセンターのある建物は、BZA（連邦鉄道中央局）と呼ばれる当時ミンデンとともに西ドイツに2か所のみにある DB の開発研究の中核機関のうちの一つの拠点である。

おそらく DB ができた当時、いや戦前のドイツ帝国鉄道公社時代からの使われていたであろう歴史的な建物は、現在は DB の中核がフランクフルトやベルリンに移り、この建物は売却されてしまったようである。

初めての出勤は忘れられない日となった。目の前にそびえる歴史的な石造りの巨大な建物はいかにも権威的であった。入口の受付で担当者と呼んでもらうと、私の前に現れたのは初老の少しひょろとした紳士の Ertl 氏であった。

彼にデザインセンターのあるフロアに案内される。BZA 館内は天井が高いいかにも役所的な作りである。デザインセンターは、他部署とは中央通路にドアで隔てられた場所にあり、そこに何名かの職員やデザイナーが各部屋で仕事をしている。部門は、列車種別によって分けられていて、InterCity などの長距離部門と InterRegio や S-Bahn など中距離や近距離部門でそれぞれにボスがいたことである。さっそく庶務室で挨拶を交わし、庶務嬢によって事務処理の後、私を担当するポストとなった Bodack 氏のところへ連れてゆかれた。

彼は、日本人である私に少なからず興味を持ったようで、この時の出会いから私が大学を卒業してからも関わりを持つことになったことには、今思えば縁を感じたのである。それは、私の実習が終わってからこのプロジェクトは続いたからである。

さて、私の実習初日はデザインセンター職員との顔合わせを行っただけではなかった。庶務嬢から挨拶の時に「あなたは運がいいわ。今日は特別なことがあるから」と言われ、何事かと思ったら午後からデザインセンター職員全員が外出の準備を始めたのである。私は、彼らから言われるままに後をついてゆくと、線路脇にある建物の裏側から線路を渡り、前方に見えている真っ白に赤いラインもまぶしい新車を目指している。実は、DB 初の新幹線車両「ICE 1」の量産車が初めてミュンヘンに到着したとこのことで、デザインセンター職員全員で新車の見学会とのことであつた。と、言うことは私は「ICE 1」に乗車した最初の日本人であることを意味する。

もちろんその時の興奮は忘れられない。私はテンション最大のまま車内を見学し、実習初日を終えたのである。

翌日に出勤すると、デザインセンターのボスから課題テーマを告げられた。それはハンブルクで計画されていた新しい通勤車両 (S-Bahn) のエクステリアデザインである。北ドイツの中心都市ハンブルクは、現在の首都ベルリンに次いでドイツ第 2 位の都市である。つまり第 3 位であるミュンヘンより人口の多い街である。ここには、ベルリンと同様の第三軌条による通勤電車が走っているのだが、この車両の多くは当時戦前に製造された電車が走っていて、これらの置き換え用として計画されていたのが ET475 形 (後の ET474 形) と呼ばれた車両である。今回私はトランスポーターデザインを専門にしている大学からの実習生としてボスから私が得意であろうエクステリアデザインを託されたということである。

このデザインに対して彼が提示した条件は以下の 3 点であった。

1. 製造メーカーである LHB 社 (Linke-Hofmann-Busch GmbH、1996 年に ALSTOM 社に吸収合併) から提供された車体断面に合わせた前頭部分の造形であること。
2. 製造コストを抑えるため前面窓は二次曲面まで。
3. 前頭部分に利用者から視認性の良い行先表示であること。

この条件でさっそく通勤電車のデザインを行うことになった。子供の頃から憧れていた DB の車両のエクステリアデザインを行うことになった私の当時の心境は、ボスの部屋の眼下に見えるミュンヘン中央駅に行き交うさまざまな車両を見ながらその嬉しさと同時に、実習とはいえ、もしかしたら世の中に出るかも知れないという気持ちで高ぶっていたように思う。

職場環境

しかしながら、デザインセンターとはいえ、この業務の多くはデザインのコーディネーションである。案内表記などグラフィックの実務は日常的にあり、グラフィックデザイナーも抱えているものの、車両のデザインであるプロダクト領域はモデル製作に限られているようで、レンダリングやスケッチをする画材もないのはちょっとした驚きであった。紙と色鉛筆、マーカーなどは、最低限のものをグラフィックデザイナーから借りたり購入してもらったりして、仕事をするための道具は何とか用意することができた。この仕事の多くは、外部デザイン事務所と連携して DB のデザインを構築するのが役割であることを思い知ることとなった。

また、始業は午前 9 時であるのだが、終業は平日月曜日から木曜日が午後 5 時まで、また金曜日は午後 2 時ぐらいで職員は帰宅してしまう。もちろん土日祝日は休みである。私が日本で働いていた職場は労組が強かったため比較的良好な職場環境であったが、残業は月に 40 時間くらいあるのが普通であったので、DB との労働環境の大きな違いには驚くばかりであった。

(本記事はイカロス出版株式会社発行『鉄道デザイン EX 08』に連載されたものを転載したものです。同社のご好意により転載の許可をいただいています。)

6.新入会員紹介

ドイツ、ベルリンの歴史の一端をこの目で

谷口和正

ぐんま日独協会とのご縁を頂き、有難く思います。

大学時代は第二外国語が必須だったので、クラシックファンということもあり、ドイツ語を選択しました。専攻でも仕事でも使う機会はなく、趣味に留まっています。しかし、学生時代の旅行で歴史の一端を垣間見ることができました。

<1980 年>

<1> 西ベルリンでシュプレー川沿いに歩きました。西岸には壁代わりの簡単な柵が建てられ、ドイツ語とトルコ語で書かれた大きな立札。

„ACHTUNG LEBENSGEFAHR!

WASSERSTRASSE gehört zum OSTSEKTOR von BERLIN“

= 「注意 命が危ない! 水路はベルリンの東地区に属します」。

”ベルリンは1つ”との考え方からか、”東ベルリン”の呼称を避けていたのでしょう。なお、国境は普通、川の中央に引くものですが、ここでは違いました。



<2> 西ドイツの高速バスで、西ベルリンから東ドイツ領経由で西ドイツへ移動しました。東ドイツの出国検問を終えてバスが西へ動き出すと、東の検問官が西の運転手に明るい声で„Wiedersehen“（”さようなら”、字義通りなら”また会おう”）。私が東ベルリン入境時に威圧的に振る舞った人の同業者が。本当にまた会いたそうでした。

<1989 年>

<3> 11 月 9 日にベルリンの壁崩壊。これ自体は予想以上に早い歴史的な出来事でした。

よろしくドイツ

谷口幸子

ドイツに造詣が深い主人のおかげで、ぐんま日独協会に参加させていただくことになりました。

普通の主婦である私が日常において、ドイツの文化にどう関わっているのだろうかと考えてみました。

見渡せば、シュタイフのベア達、マイセン磁器、キッチン雑貨等、多数のドイツがありました。

あらためてドイツを意識下に置くと、まだまだ知りたい気持ちで一杯になるのです。



7. お知らせあれこれ

2025 年ドイツ大使館絵画コンテスト結果報告

群馬から小学校 全国 1 位 と 中学校全国 3 位の受賞

日本の子ども達にドイツに興味を持ってもらうきっかけになってくれれば
という思いから始まったドイツ大使館主催の絵画コンテスト「わたしのドイツ」。
今年度は18回目でした。(積極的に参加をはじめ 5 回目です)
群馬県内から 155 点(ぐんま日独扱い分)の応募をいただきました。
審査の結果、小学校の部で共愛学園小学校 新井さんが全国 1 位を
中学生の部で前橋市立第六中学校 関谷さんが全国 3 位を
受賞という素晴らしい結果でした。

Informationen
いつも素敵な作品を
ありがとう!!



小学校 1 位「群馬県とブルーノタウトをつなぐ Wa!」



中学校第 3 位「環境と未来を守るドイツ」

その他に多数の作品が大阪の総領事館より特別賞(大阪・関西博関連)のサプライズをいただきました。
11 月下旬に開かれた大使館での 1 日公開日(関係者)には、たくさんの児童生徒と保護者の方が大
使館を訪れて、鑑賞や記念撮影をしていました。

取りまとめをしていますと、児童・生徒の絵からドイツに対する熱量や気持ちが年々増しているのを感じ
ます。いろいろ調べ、学び、理解を深め、絵画展に臨んでいるのを感じます。
毎年楽しみに出し続けてくださっているお子さんもいます。とても頼もしく感じます。
いつも素敵な作品をありがとうございます。

共愛小学校	93 点	前橋市立総社小学校	1 点	共愛中学校	1 点
沼田市立薄根中学校	3 点	前橋第六中学校	57 点	計	155 点

ご協力やお世話をいただきました先生方、保護者の方々、関係者のみなさまに感謝申し上げます。
大使館絵画展担当:岡

8.編集後記

ハイマート 67 号は「第 10 回ドイツフェスティバル in ぐんま」特集となりました。

多くの担当してくださったフェスティバル実行委員の皆さんと、ご執筆していただいた会員の皆さんの力作が並び、とても楽しい記事満載の特別号になったと自負しております。

今回、ご都合が悪く会場へ足を運ぶことが出来なかった皆さんも、ひととおりこの文章に目を通す時、その楽しさを次回のフェスティバル開催の時には、このハイマートを「私が書く」と思われることでしょう。

ぐんま日独協会はそんな多彩な人物の集合体です。「次はアナタの番です」。お楽しみに！

問い合わせ先・参照先

ホームページ (HomePage) <https://www.jdg-gunma.jp>
フェイスブック (FaceBook) <https://www.facebook.com/JDGGunma>
E-Mail info@jdg-gunma.jp
Tel 027-231-4553 (平方 方)

QR コード



ホームページ



フェイスブック

☆雑学トピック☆ ドイツ各州の旗（北の州から順に紹介しています）



Nordrhein-Westfalen
ノルトライン＝ヴェストファーレン州
Düsseldorf デュセルドルフ



Hessen
ヘッセン州
Wiesbaden ヴィースバーデン



Freistaat Thüringen
チューリンゲン自由州
Erfurt エアフルト